

## 産業技術総合研究所豊橋観測点における地殻歪場

## Crustal strain field at Toyohashi station of National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

# 北川 有一[1], 小泉 尚嗣[2], 松本 則夫[1], 山内 常生[3]

# Yuuichi Kitagawa[1], Naoji Koizumi[1], Norio Matsumoto[2], tsuneo yamauchi[3]

[1] 産総研, [2] 産総研地球科学, [3] 名大・理・地震火山観測研究センター

[1] GSJ, AIST, [2] AIST, [3] RCSV

産業技術総合研究所は、名古屋大学地震火山観測研究センターの協力を得て、愛知県豊橋市の三河地殻変動観測所内にボアホール孔或いは坑道を用いて地殻歪、地殻傾斜、地下水位、地下水温、地下水溶存ガスの観測を行っている。豊橋市は東海地震の想定断層面の西端付近にあり、2001年初頭から続いている東海地方の異常地殻変動エリア内に位置する。今回、3成分歪計の連続測定データを用いて地殻歪場を求めたので、周辺のボアホールによる地殻歪測定の結果や国土地理院の三角測量の結果と比較し、報告を行う。

豊橋観測点での測定結果はN102E成分が伸び、N222E, N342E成分が縮みを示している。主歪解析の結果、過去2年間では西北西 - 東南東が最大伸張、北北東 - 南南西が最大圧縮と求められた。これは、豊橋観測点から北東約40kmに位置する気象庁の静岡県佐久間観測点（北西 - 南東が最大伸張、北東 - 南西が最大圧縮）とおおよそ一致する。しかしながら、他の静岡県内の結果（気象庁の掛川観測点、産業技術総合研究所の草薙観測点、国土地理院の御前崎観測点）とはほぼ正反対であった。核燃料サイクル開発機構東濃地科学センターの岐阜県土岐市内の観測点（97FT-01号孔）の結果（ほぼ北 - 南が最大伸張、ほぼ東 - 西が最大圧縮）とも、やや異なる。加えて、国土地理院による1883年～1985年及び1985年～1994年の三角測量の豊橋付近の結果（東北東 - 西南西が最大伸張、北北西 - 南南東が最大圧縮）とも多少異なっている。

今後は、理論潮汐を用いたキャリブレーション処理などを行って考察を進める予定である。